

飲料水に関する調査——市販のおいしい水の利用状況——

跡見短大家政 ○今中正美 道本千衣子

北海道東海大教育開発研究センター 鈴木充夫

目的 現在、市場で飛躍的伸びを示している家庭用おいしい水が、首都圏の消費者にどの様に利用されているか、又、味の点で水道水などよりも好まれているのかを調べる。

方法 消費者(調査対象として、主として本学食物コース学生、中高生、首都圏在住の主婦)へのアンケート、味に関しては、水道水・湯ごまし・市販おいしい水・蛇口に取りつけた以外の浄水器を通した水各々について、三点嗜好法による官能検査を行った。

結果 ①主として飲んでいる飲料水の形態は、水道水が8割近く、多くの家庭で湯ごましにする又は、浄水器を通すなどせずそのままの形で飲んでいた。又、市販のおいしい水を飲料水としていると回答した家庭が4%あった。

②市販のおいしい水を水として飲んだことがある人は約半数で、内、7割近くが自宅で飲んだことがある。又、その水を飲んでおいしか、たと答えた人は、半数だった。

③市販のおいしい水を買った理由は、興味でという回答が55%余あり、いつも飲んでいる水がまずいから24%、健康の為21%となった。利用法は、飲み水が40%余で一番多く、次いで水割り用20%余となった。又、これから(も)買うかの問いには、約10%の人が買うと回答した。

④官能検査の結果は、必ずしも市販のおいしい水が好まれるとはいえず、アンケートの結果とも一致したといえる。